



PC鶴丸の6月の様子

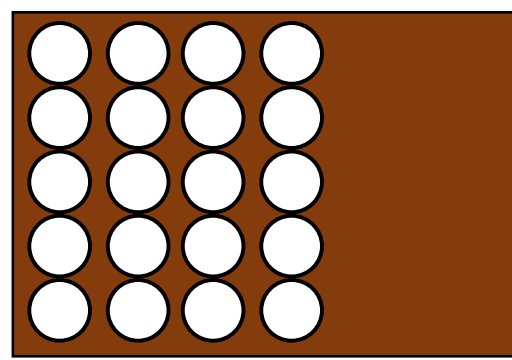
PC鶴丸 ハウス半促成栽培のポイント

<PC鶴丸の特徴>

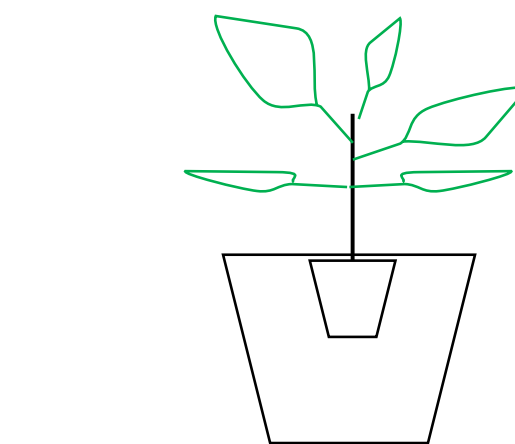
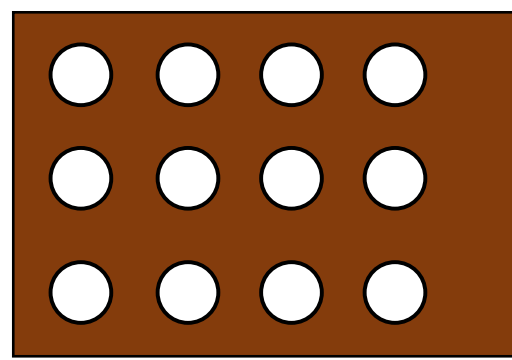
- 単為結果性品種のため、すべての生育ステージで植物生長調整剤の処理が必要ない。
調査では、植物生長調整剤の処理にかかる時間が44.6時間(600株あたり)、作業回数が23回削減！
- 収穫量の調査では、式部100に対し、PC鶴丸97となり、ほぼ同等となった。
- 一部の生理障害(日焼け果、舌出し(テング)果、ガク割果、ガク枯果等)が発生しやすい。
- 初期収量が少ないため、後半までしっかり管理して収量をあげる。

1 育苗(鉢上げ後の管理)

- 土を入れたポットは鉢上げ前にビニール被覆等で温めておく。
- 育苗ハウスの最低気温が8～10℃程度となるよう電熱線を設定する。
- 昼間は光を当て、鉢土の温度を上げる。
- 鉢は12～15cmポットを使う。大きい方が初期生育に優れる。
- 育苗のスペースを広くとって徒長しないようにする。
- 式部よりかん水間隔を短くする。
- 定植苗購入や育苗鉢が小さい場合、1番花の開花前に定植する。(老化苗にしない)
- 育苗鉢が大きい場合、定植時に開花している花はすべて落とす。



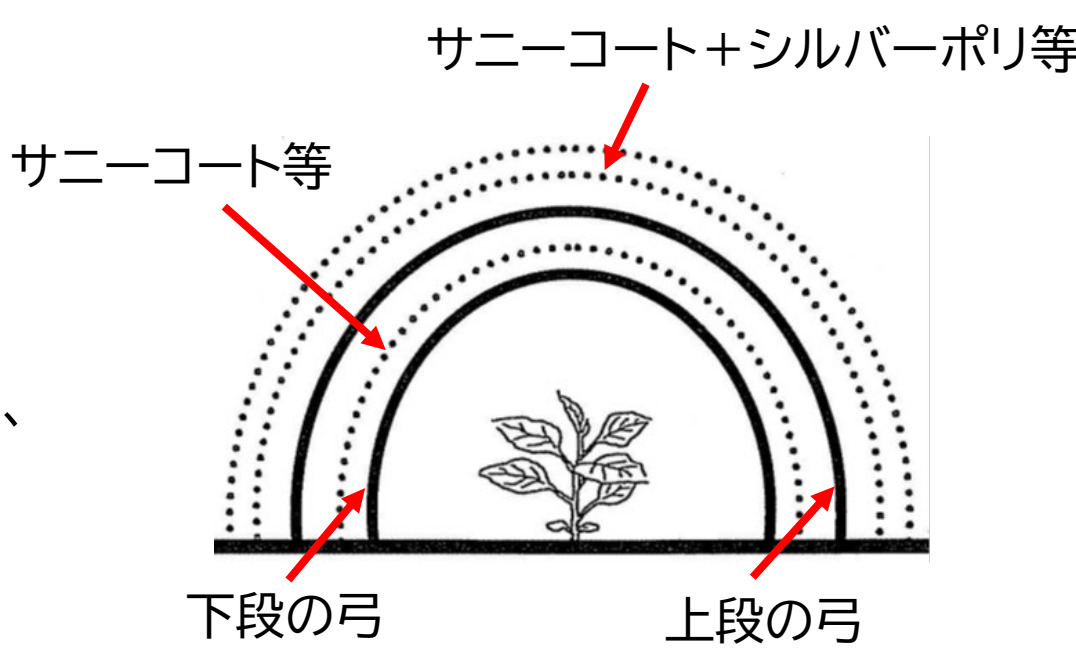
スペースを確保し、光をしっかりとる



セル苗の培土がわずかに隠れるくらい株元に土を寄せる

2 ハウス(本ぽ)定植

- 定植時期
エコノミーハウスなどカーテンのあるハウス:1月上旬
パイプハウス(3重トンネル):1月下旬
パイプハウス(2重トンネル):2月上旬
- 定植前に早い段階でマルチを張り、あらかじめトンネルを設置し、地温15℃を確保する。(マルチの色:透明、グリーン)
- 定植時は、殺虫剤の灌注処理もしくは粒剤の処理を行う。
- 定植後は、手かん水を行い、鉢土とハウスの土をなじませる。



土壌水分を確保することで地温を上がりやすくする



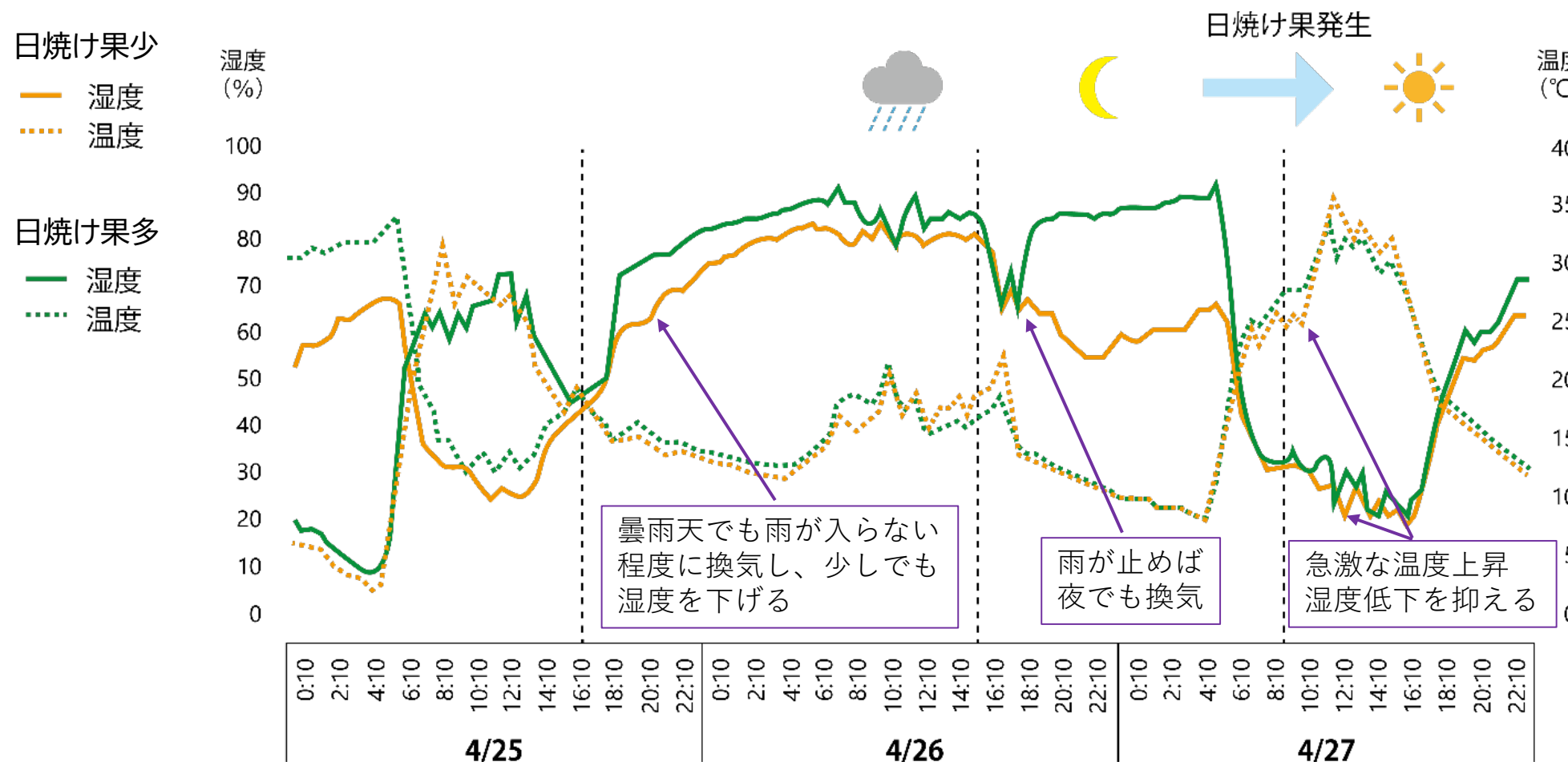
あらかじめトンネルを設置して地温を確保する

3 定植後～収穫開始までの管理

- 初期の樹づくりが重要となる。しっかり活着させ、根張りを確保する。
主枝の太い樹を作る。
→土質にもよるが、初期のかん水をやや増やす。
- 1番花を落とし、樹勢をつける。樹勢が弱い場合は2～3番花も落とす。
→この時期に根張りが良い樹を作ると日焼け果の発生も少なくなる。
- エコノミーハウスの場合は、夕方の温度を落とし、徒長させないようにする。
- 暖房機を使用する場合は、徒長しない夜温とする。
(式部と異なり、低温で石ナスになることはない)

日焼け果・ガク結果対策

- PC鶴丸は日焼け果が発生しやすい。特に3～5月の発生が多い。
- 根張りをよくし、草勢を強めに維持する。
- 遮光資材やカーテンによる遮光(可能なら)をする。
- 天候が回復した早朝は、急激に温度が上昇しないように換気開始時間をいつもより早くし、早めに換気幅を広くしていく。
(可能な温度ならば、曇天夜に換気を開ける、トンネルの裾を開けておく)
→少しでも湿度を下げておき、ハウス内温度の上昇を緩やかにする。
- 土壌水分が少ない場合は、天候が回復する早朝にかん水する。
ただし、多すぎないように注意する。
- 葉が繁茂しているようなら、葉かきをしておく。
(PC鶴丸は草勢が落ちやすいため、初期の葉かきは控えめにする)

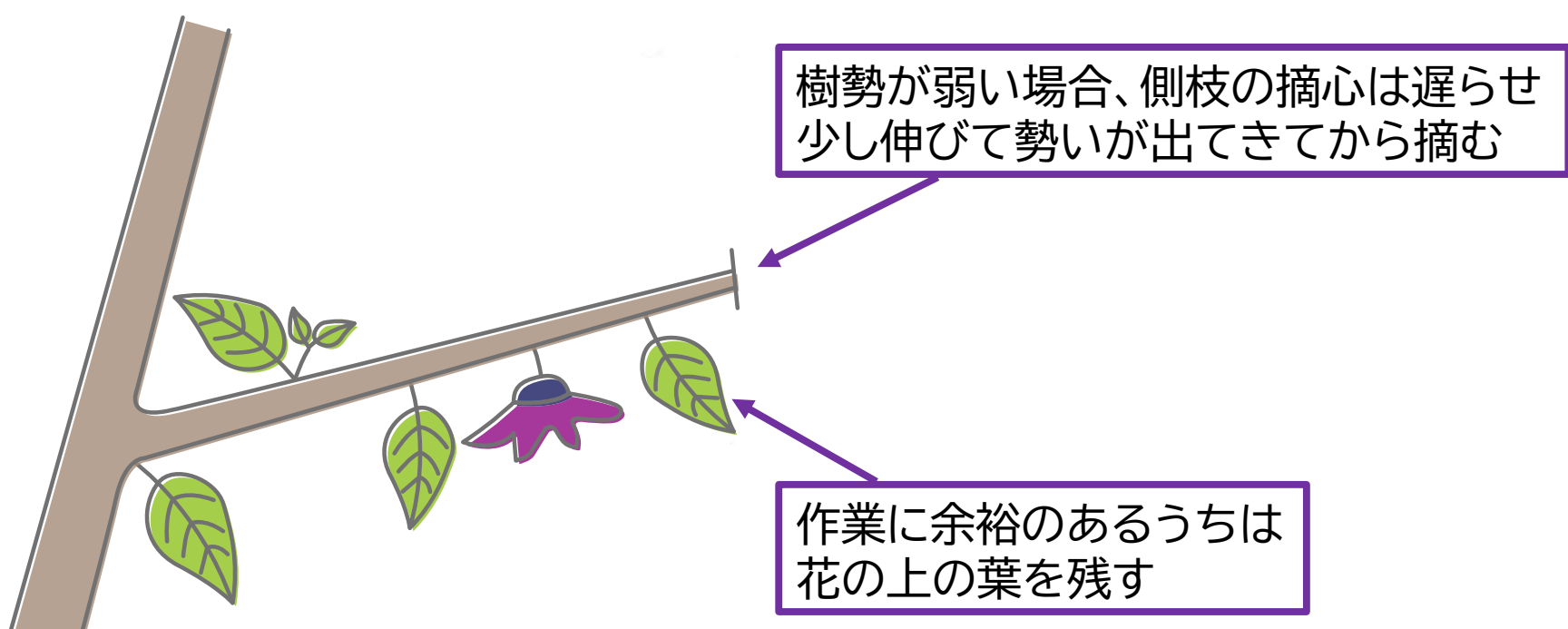


2連棟パイプハウスにおける日焼け果数と温湿度の推移

- ・天敵の利用(スワルスキーカブリダニ)
パンカーシートは3月上旬、ボトル製剤は4月10日頃が目安。
スワルスキーカブリダニは増殖に15℃以上必要。
導入前は、アザミウマ類、ハダニ類、アブラムシ類の防除を徹底して行う。

4 収穫開始頃の管理

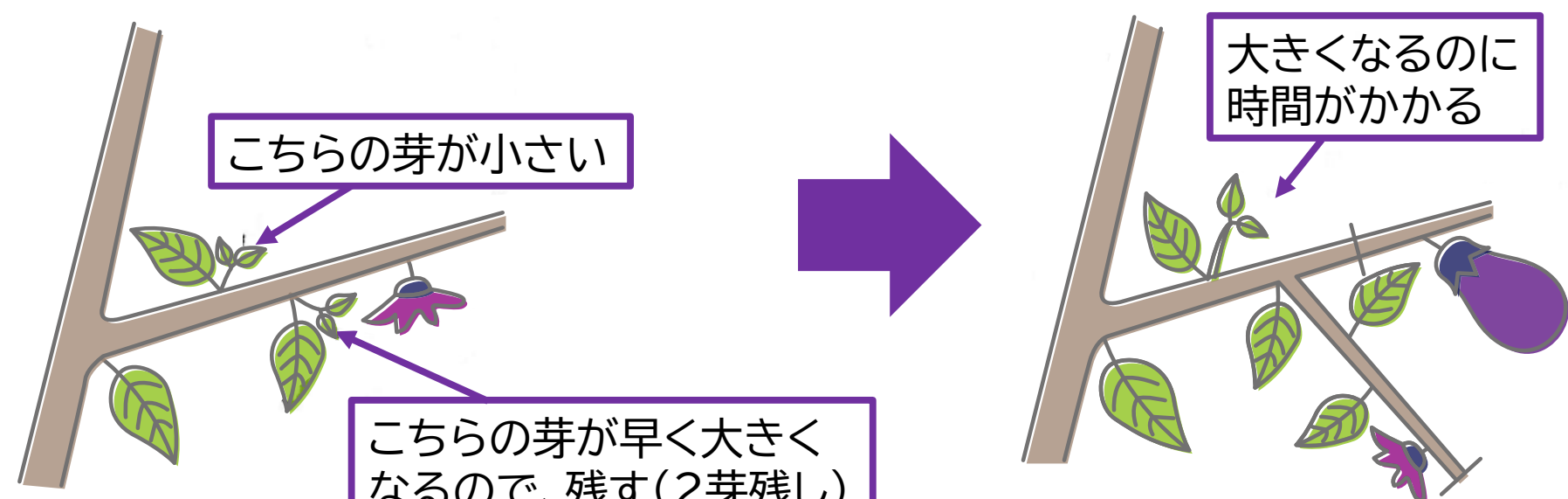
- トンネルの除去は4月上旬頃に週間天気予報を確認して行う。
- トンネルの除去後は、速やかに4本の主枝をつり上げる。
- 3～5段が開花の頃(着果負担がかかるとき)に草勢がおとなしくなりやすい。
ここで草勢が落ちると、側枝の発生が遅れ、収量がとれない。
花の質が悪くなる、花が小さくなるなどでガク割果の発生などにつながる。
※1 複花を落とし、かん水量を増やす、主枝の葉を残す、液肥を増やす、側枝の整理を遅らせる、発根剤を流す、などを検討する。
- 追肥は窒素成分で10aあたり1～1.5kg/7日間を目安とする。



草勢維持のため、側枝の整理の仕方を検討する

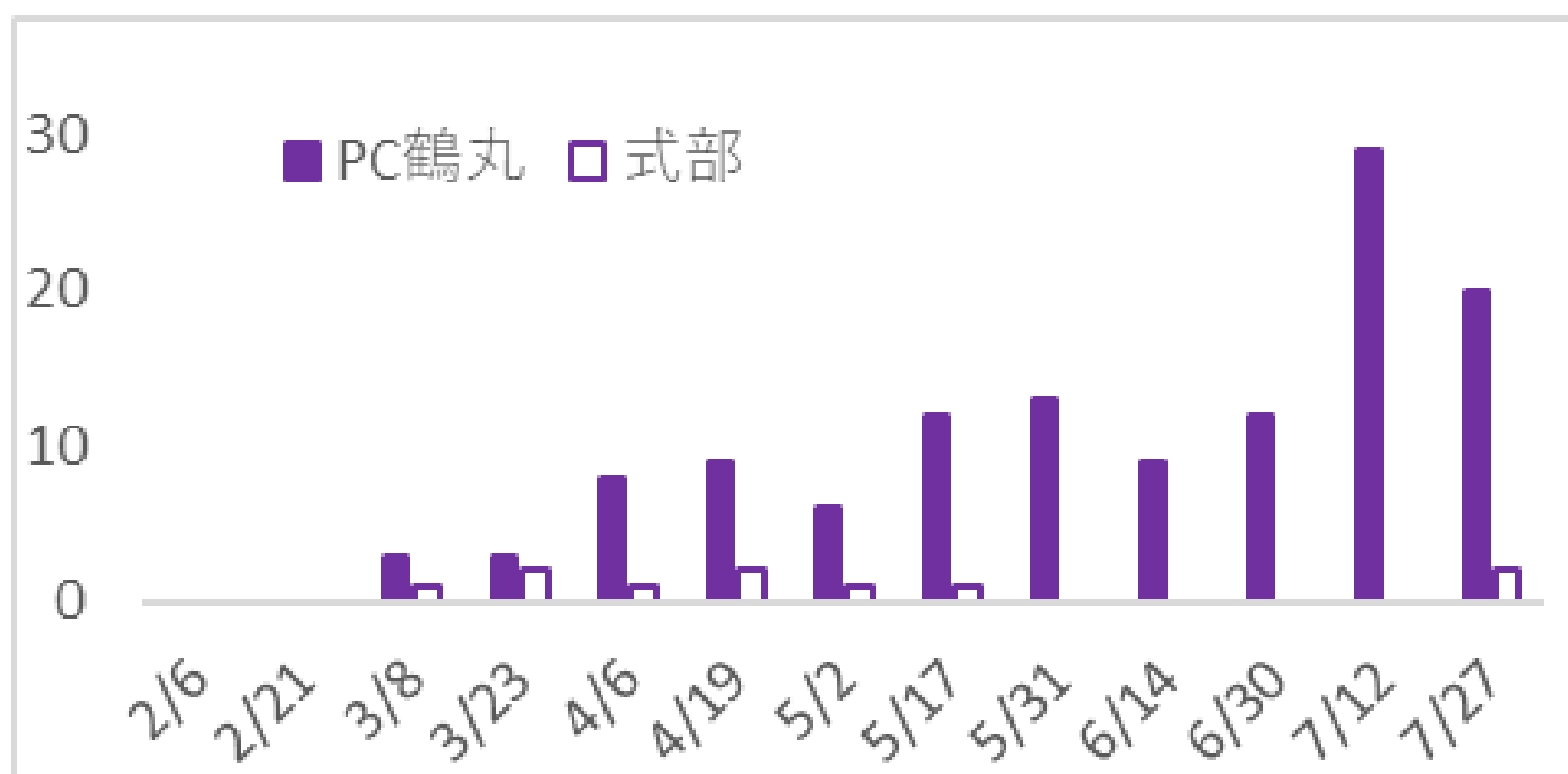
5 主枝の摘心頃の管理

- 草勢がおとなしい、側枝の発生が遅い場合は樹勢の維持に配慮する。→上記※1の対策を検討する。
- 草勢が確保できている場合は、複花を残し、収量を増やす。



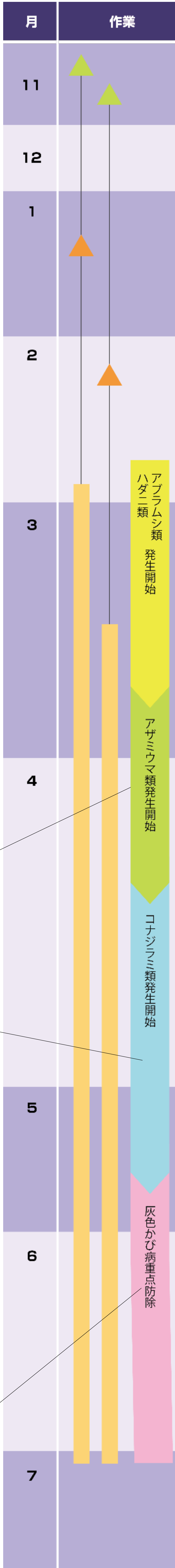
収量確保のため、2芽残しを検討する

- ・舌出し(テング)果の発生
必ず発生する → ある程度の発生は許容する
発生させないように肥料を減らすと草勢低下につながる。
一度に多量の追肥をせず、式部と比べ、早くから追肥の間隔をつめて行う。



舌出し果発生数の調査(各区20株)

- ・灰色かび病
花落ちが悪いため、灰色かび病が発生しやすい。
梅雨時に曇雨天が長引く場合は注意する。
→花びらをとる、梅雨入り前から防除する、防除回数を増やす、多湿を避ける



▲鉢上げ ▲定植 ■収穫